

## 1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ( )	

## 2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は海洋教育を推進しており、海洋に関わる課題解決を図る学習を展開している。

特に、本校は、校区を取り巻く森林と有明海の関わりを学習しながら、「森・川・海」のつながりが実感できるよう実践を進めている。そして、関連するSDGsの目標14・15を中心に、総合的な学習の時間において、海洋教育の4つの視点「海に親しむ・海を知る・海を守る・海を活用する」を系統的に仕組んだ活動計画を作成し、実施している。



## 3 特徴的な活動事例の紹介

### ○ 【5年生】山・川・海とのつながりの学習と環境保全

子どもたちは4年生までに、校区を流れる野間川には生き物が多く生息していることを学習している。

そこで、校区を流れる野間川を水質調査すると、パックテストの結果や生息している生き物の種類の調査から、水質がきれいであることが分かった。



さらに、GT等の話から、有明海に珍しい生き物が生息しているのは、山の土壌から染み出た栄養が川を伝って、海に流れ込むからだということを学習した。

これらの学習をとおして、子どもたちは、森林を守ることが川や海の生き物や豊かな有明海の環境保全につながるという「山・川・海」のつながりを理解することができた。

子どもたちは、学んだことをグループごとにまとめ、川をきれいにするために生活排水を流さないこと、ごみを捨てないことなど、自分たちができることを通して、海の環境を守ろうと全校児童へ発信した。



### ○【6年生】竹を活用した環境保全

6年生は校区の森林調査を行い、放置された竹林は土砂崩れなどの原因になっていることや、竹林の根は浅いため、山崩れの原因になり、広葉樹の森林と比較して、土壌の栄養が少なく、山の環境、さらには海の環境に影響を及ぼしていることを知った。

一方で、手入れされている竹林は、竹の香りがして心が落ち着き、静かで心地よい空間になっていると

いう違いを実感した。そして、実際に竹を切って竹の丈夫さを実感したり、タケノコを掘ったり、校区に自生する野草を食してみたりして、校区の豊かな自然を守り、竹の良さを生かしたいという思いをもった。

そこで、学校の敷地の中に、竹炭を埋めて作った道路や、野草などを植えたコーナーを作り、「バンブーガーデン」と名付けた。天の原小学校の他の学年にも、竹の良さや、野草などの自然の良さを感じてもらおうようにこれからもバンブーガーデンを手入れしながら自然の良さを伝えていく。



## 3 今後の活動計画

令和7年度は、ESDにおいて、さらに海洋教育を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 各学年で学習する内容を整理し、海洋教育の目指す資質・能力を明確にしながら体系的な活動内容の充実と、令和6年度までの実践をさらに深めていく。
2. SDGsの視点を子ども達に意識させる学習となるように、身近な「ひと・もの・こと」を活用した教材開発と、効果的な活用方法を探求する。さらに、様々な体験活動や協働学習を位置づけ、子ども達が主体的に活動を広げて、学んだことを様々な人々に発信できるような活動を展開する。